

埼玉佛教

平成26年1月 第197号

平成26年1月6日 発行
 No.197
 〒330-0063
 さいたま市浦和区高砂4-13-18
 一般財団法人 埼玉県佛教会
 電話 (048) 861-2138
 FAX (048) 864-6649
 発行人 萩野 映明
<http://saibutu.net>
 印刷所 関東図書株式会社

「第35回埼玉県佛教徒大会・第17回わかる仏教講演会」



開会行事「萩野映明会長あいさつ」／平成25年11月18日(月)・クレアこうのす

新年あいさつ	2
宗教学法人研修会案内	2
受章報告	3
埼玉仏教文化講座【予告】	3
第35回埼玉県佛教徒大会	3
・大会会長あいさつ	5
・開催報告	4
トピックス	8
▼「埼玉宗連」研修旅行	8
▼「共同募金会」募金協力	9
▼「埼玉同宗連」	10
・現地学習会	10
・狭山事件市民集会	11
・第33回部落解放	11
埼玉県研究集会	11
▼「埼玉県佛青」	11
・紫燈護摩供・火渡り修行	11
地区仏教会だより	11
▼浦和仏教会／埼玉県佛青	12
・「歳末助け合い托鉢募金」	12
年賀名刺広告	13
県警交通企画課	14
埼玉講話	15
計報	16
事務局日誌	16
編集後記	16

目次

新年あいさつ

「王三昧・民三昧」

一般財団法人埼玉県佛教会

会長 萩野 映明



希望に満ちた新春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、日本国内では、先の参院選でねじれが解消された結果、低迷していた経済活動が穏やかに回復の兆しをみせております。そして日本が世界に誇る富士山が世界遺産に登録され、東京五輪の招致も決まり明るいニュースが届く一方、福島原発の汚染水問題は深刻化し、現在もおお、避難生活を余儀なくされております。そういった方々に以前同様の安穏な日々が訪れるには、まだまだまだ時間を要すると思えます。また、世界に目を向けてみま

すと、記憶に新しいところでは、台風30号がフィリピンで猛威を振るい甚大な被害を及ぼしました。そして、ボストンマラソン爆破事件や、シリアの化学兵器攻撃で、多くの尊い命が奪われた他、中国大気汚染が最悪レベルに達するなど暗いニュースが目につきます。

このような時節にこそ、我々宗教者は、衆生を心のやすらぎへと導いて行かなければなりません。

私が永平寺での修行時代に学んだことの一つに『王三昧、民三昧』という教えがあります。三昧とは、その物事に成りきることをさします。

私は、能仁寺の住職に就任して以来40年間、絶えることなく参禅会を続けて来ました。昨年、自坊に禅堂が完成し、坐禅の場を本堂から禅堂に移しました。



禅堂の正面には『王三昧』と書いた扁額があります。毎週日曜日の早朝、参禅会には老若男女を問わず、多くの方々が訪れます。

道元禅師の只管打坐の「只管」とは、ひたすら、ただ一筋に一つのことに専念することで、「打坐」は坐禅に打ち込むことでもあります。所謂『坐禅三昧』のことなのです。その三昧の中でも、今より更に高い禅の境地を『王三昧』といい、そこを目指しながら自己の研鑽を進めていくことが大切なのです。

今年もご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年のあいさつといたします。

【平成25年度 宗教法人研修会】

- 平成26年 2月12日(水) 13:30~16:00 熊谷会場 熊谷地方庁舎・大会議室
- 平成26年 2月13日(木) 13:30~16:00 さいたま会場 埼玉会館・1階

- (1) 埼玉県宗教連盟の概要等について (15分)
- (2) 埼玉県における基本的な事務手続きについて (105分)



2014年2月8日～
全国ロードショー

平成二十五年
受章おめでとうございます

《春》

瑞寶雙光章 井上 弘道 師

(飯能市・秀常寺 更生保護功勞)

《秋》

藍 綬 褒 章 佐瀬 英雄 師

(秩父市・洞昌院 更生保護功勞)

瑞寶小授章 堀澤 秀夫 師

(越谷市・光明院 更生保護功勞、教育功勞)

第6回埼玉佛仏教文化講座【開催予告】

入場無料・要参加申込

開催 平成26年2月19日(水)

会場 埼玉会館 [さいたま市浦和区高砂4-13-18]

※駐車場はありません。ご来場の際は公共交通機関を御利用ください。

講演 『今日も ニコニコ ありがとう』

講師 ^{おおやぶ}大藪 ^{しょうさい}正哉 先生 (中野区・曹洞宗天徳院住職)

※詳細は現在、調整中です。内容は変更になる場合があります。

- 講師プロフィール 昭和7年(1932年)東京生まれ、東京教育大学文学部助教授、筑波大学歴史人類学系教授を務める。福祉施設への援助活動を続けながら、「厄年の人は厄除け祈願のお金を、障害のある方をお世話している施設に贈って、厄をみんなで分け合おう」という提唱をし、人のために役立つ現代的「厄払い運動」をおこなっている。

■お申込み方法

県佛ホームページから「申込用紙」をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、郵送、又はFAXにて申込みいただくか、埼玉県佛教会事務局まで「文化講座申込み」と一言添えてお電話ください。その際お名前、ご連絡先、参加人数をお知らせください。

埼玉県佛教会ホームページ

埼玉県佛教会

検索

<http://www.saibutu.net/>

一般財団法人 埼玉県佛教会

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂4-13-18
TEL. 048-861-2138 FAX. 048-864-6649

第35回埼玉県佛教徒大会開催報告

平成25年11月18日(月)。第35

回埼玉県佛教徒大会ならびに第17回わかる仏教講演会が鴻巣市文化センター「クレアここのす」大ホールを会場に南部地区仏教会が担当となり、鴻巣市仏教会ならびに鴻巣地区仏教研究会の主管で開催された。今大会の開催テーマは『心豊かに生きる』。本大会では、記念品として散華が配布された。



ほかほか陽気に恵まれたことも後押しとなり、12時の受付開始時間前から入場を心待ちにする大会参加者の列ができ、約千名の参加者が来場した。

《開会行事》



13時開会。まず大会会長の萩野映明会長を導師に記念法楽を厳修。各宗派の法衣を纏った式衆が壇上に揃う姿もまた佛教徒大会の醍醐味である。木魚のリズムに合わせて来場者と共に三歸依文、般若心経をお唱えした。法楽に続いて、最初に萩野映明会長があいさつ(5頁参照)し、続いて、来賓の全日本仏教会 社会人権部長、大辻隆善師ならびに鴻巣市長の代理で鴻巣市教育委員会教育長の武藤宣夫様から祝辞をいただいた。



《記念講演》



記念講演の講師には、青山俊董先生をお招きした。先生は、昭和8年に愛知県一宮市に産まれ、5歳で長野県塩尻市にある曹洞宗無量寺に入門、15歳で得度され、愛知専門尼僧堂に安居。現在、尼僧堂堂長ならびに正法寺住職を兼務。『今ここをどう生きる―勅題「立つ」に寄せて』を演題に約90分の講演。

《以下、講演内容抜粋》

「まるびても 又 まろびても
喜々として
立ち上がりゆかん
幼な児のごとく」

◆講演の始まりは、平成25年1月に天皇陛下が出題された歌御会始のお題「立つ」によせて、青山先生が創作した歌の紹介から始まった。

青山先生は、この歌の創作にあたり、「赤ちゃんは、幾度となく転んでも、何のこだわりもなく、キャッキヤとして立ち上がる。ところが、大人になると転んだこと、失敗したことにこだわって中々立ち上がれない。たとえ人生の旅路の中で何度転んでも、何度失敗してもこだわり無く立ち直って生きていきたい」という想いを表現したかったとのこと。

先生が堂長を務める専門尼僧

大会会長あいさつ

第35回埼玉県佛教徒大会会長
一般財団法人埼玉県佛教会会長
萩野 映明

第35回埼玉県佛教徒大会が開催されるにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。鴻巣市仏教会は、一般檀信徒の方々を対象とした教化活動が盛んな地域の一つであります。鴻巣市仏教会と超宗派青年僧を中心とした鴻巣地区仏教研究会では隔年毎に「わかる仏教講演会」を開催しており、この度の「埼玉県佛教徒大会」と併せて開催されますことを心から嬉しく思っております。

さて、今の世の中を見回しますと、記憶に新しいところでは、フィリピンに上陸した大型台風がもたらした大きな被害があります。自然の猛威は、尊い命をいとも簡単に奪い去ります。この世に生を受けた者は、必ず滅び死ぬ「生者必滅」という言葉があるとは云え、私たちが生きている世の中では、辛いことや嫌なことが起こった時にどう対処するかについて、いつも考えさせられます。

また、日本国内では100歳以上の長寿人口が5万人を超えたといえます。釈尊の生涯が80年であったことを考えると、実に凄い時代になりました。釈尊が80年の生涯を終える時、弟子達から『お釈迦さまが入滅された後、私たちはどういう生き方をしていけば良いのでしょうか』という質問に釈尊は『私の教え（法）を支えにして生きなさい。また自分自身を支えて生きなさい』と答えました。これが「法燈明・自燈明」という言葉につながるのです。

我々佛教徒は、釈尊の教えをしっかりと守り、それを支えに生きていくことは、とても大切なことです。その教えを学ぶ絶好の機会が、佛教徒大会であります。

終わりになりますが、ご来賓各位、ご参集の皆様方に感謝申し上げますと共に今後のご健勝を祈念いたします。また、開催にあたりご尽力いただきました鴻巣市仏教会、鴻巣地区仏教研究会ならびに南部地区仏教会の関係各位に衷心より御礼を申し上げ、あいさついたします。



堂や自坊の正法寺には、入試を控えた受験生が坐禅をしにやってくる。ある時、青い顔をした青年が坐禅にやってきて、帰りに「先生！大学に合格するよに拜んでください」と頼まれ、傍らにいた親から「息子は東大を目指しています」と付け加えられた時に「2、3回不合格になった方が良いでしょう」と返すと、その親子が目を丸くしていたというエピソードに場内には笑いが広がった。



人生の旅路の中で「入試」とは一度は通らないといけない関所。そんな折、親御さんも学校の先生も「成功」か「失敗」という2つの言葉しか話にしないうことは心貧しいものだと言います。続けて、『エリートコースをストリートに走るばかりが能くは無い、ストリートに走ることは知らなければ、一つ間違ったら奢り高き人間になるし、失敗に弱い人間になる。身心の柔軟なうちに転んだり、失敗する稽古をしなさい。転ぶこと、失敗することが恥ずかしいのでは

なく、転ぶこと、失敗することにこだわって、起き上がることでできないほうが恥ずかしい。昔から「失敗は人間をダメにするのでは無く、失敗にこだわると心人間をダメにする」という。むしろ失敗したことを跳躍台にして、もっと強く、もっと高いところに立ち上がることができ、更にはその経験を通して、不合格になった人、失敗した人の悲しみが判るようになれば、もっと素晴らしい」と語った。

またある時、浅草寺仏教文化講座の講師として呼ばれた時のこと。自分の講演の前にもう一人講師がいた。その方は、角界に生きる第28代立行司の木村庄之介さん。立行司の話なので始終「勝つ」ことの話かと思いきや、講演の終わりに「勝って騒がれるより、負けて騒がれる力士になれ」との結びの一言に自分の創作した歌に通じるものを感じ、自分の講演の冒頭に「勝って騒がれるのは、技と力のな

せるところ、負けて騒がれるのは勝ち負けを超えたところを睨んで生きる人格の深さ、高さである」と始めた時の記憶が鮮明に残っているとのこと。

◆仏教における深層心理学『唯識』では、「よしやるぞ！」と志を起ち上げた時に、それを支える4つの力があるという。その「四勝力」についての話。

因力いんりき

親からもらった授かりの力のこと。ものの見方には一方向からでは無く、様々な角度から見ることでできる「モノサシ」があり、日頃から数本のモノサシを備えている家族のもとで成長する子どもも、自然とこのモノサシを継承していく。これは情操教育の一環としてとても大切なことである。

ある運動会で、自分の息子が駆けっこでビリになったことを

喜ぶ家庭の話―競争でトップでゴールすることを喜ぶ家庭があれば、ビリになったことを喜ぶ家庭もある。後者の家庭では、どうして息子がビリになったのかという中身を見ての結果である。自分の子供にビリになった理由を聞いてみると「走っては転んで、走っては転んでを繰り返す友達心配ですぐ後ろを走っていた」と答える息子を見て目を細める家庭もあるという話に心が暖まった。

作為力さゝいりき

「やる気、本気、心の立ち上がり」のことを指す。ここでは、大石順教尼が詠んだ歌を取り上げた。

「何事も 成せばなるてふ
言の葉を 胸に刻みて
生きて来しこそ我れ」

大石順教尼の本名は、大石よ

ね。明治21年、大阪の寿司店の娘として生まれた。幼時から芸能の才覚を持ち、15歳で人気の芸妓であったが、18歳のとき、養父の中川万次郎が、家族6人を刀で殺傷する「堀江事件」を起こし、両手を斬り落とされるという災厄に見舞われた。しかし、ある時、籠の小鳥がくちばしで雛に餌を与える姿を見て、心が障害にならなければ、人間として不可能はない。「手がないから不便だなどと思ったことは一度もない。やりたいことは、何だつてできる」ということに気がつき、それを実践する人生を送ったという。

青山先生は、常日頃、道元禅師の言葉「発心百千万発」の想いを持ち続け、また順教尼の生き様から、自分に行き詰まることがあれば、「両腕があつて何が書けない、本気の心の立ちあがりがないだけのことではないか」と自らを奮い立たせるのだと語る。



『善友力』
ぜんりのりき

「よき師」と「よき友」に支えられながら、正しい人生の師匠に会い、正しい教えを心して身につけていかなければ、一生を台無しにしてしまうことを

「正師を得ざれば 学ばざるにしかず」という人生の教訓の話。ある日、お釈迦さまが弟子を連れて散歩していた時、道端に縄の切れ端が落ちていた。するとお釈迦さまが「その縄切れを拾ってみなさい。どんな匂いがあるかね」と訊ねると、弟子が「とても嫌な匂いがします」と

答えた。さらに歩みを進めていくと、今度は、紙切れが落ちていた。再度、お釈迦さまが「その紙切れは、どんな匂いがするかね」と。弟子は「とてもよい匂いがします」と答えた。その答えに続けて、お釈迦さまは「どちらも最初から匂いがついていたらわけではない。縄は嫌なものを縛った結果、嫌な匂いがついてしまった。一方、紙は良いものを包んだ結果、皆に好まれる紙となったのだ」と説かれたという。

『資糧力』
しりょうりき

たった一度の人生をどう生きるかについて考える時、マイナスの要素とも思えるような機会すら、良きチャンスと受け止められる力のこと。

先生自身がガンであるとの診断を受けた時のエピソード―自分の都合で病の種類は選べない。例えその病が死に至るものであ

っても、選べるものではないのであれば、『自分の命を見つめ直す機会を仏さまから授かったものとして心静かに両手を合わせて頂戴しましょう』と本来なら愕然として落ち込んでしまうような事象も、受け止め方次第で心の落ち着き所を決められるというもの。

青山先生の講演の中には、人生の旅路を歩む中、一生をムダにしない生き方のヒントが沢山鏤められていた。

◆◆◆記念品贈呈◆◆◆

ご講演
頂いた、
青山俊董
先生に感謝の意を
込めて、
大会実行
委員長の馬場知行師から記念品



(胡蝶蘭) が贈呈された。

《記念公演》



第2部は、智山雅楽会による『雅楽』が演奏された。笙、篳篥、笛の奏でる優美な雅楽の音色が会場一杯に広がり、参加者全員が心地よく耳を傾けていた。雅楽奏楽の管弦では、「五常楽急」と「越天楽八多良」の2曲が奏でられた。続いて豪華絢爛な装束に身を包んだ舞手が雅楽の演奏にあわせて舞を披露する『舞楽』。曲目は「蘭陵王」。



《閉会》



最後に馬場知行大会実行委員長から、第35回埼玉県佛教徒大会と第17回わかる仏教講演会が



盛會裡に開催出来たことの謝辞が述べられ幕を閉じた。

県佛大会義捐福祉募金報告

大会当日、参加の皆さまからお預かりした義捐福祉募金の合計金額は、249,297円になった。寄せて頂いた募金は、日本赤十字社と埼玉県共同募金会鴻巣市支会事務局（鴻巣市社会福祉協議会）に寄附された。

トピックス

「埼玉宗連」研修旅行

「埼玉宗連」研修旅行

11月8日（金）から、1泊2日の旅程で『平成25年度・「埼玉宗連」研修旅行』（理事長・飯野敏明）が実施された。参加者は46名で、本会からは9名が参加した。今回は、20年に一度の式年遷宮を迎えた伊勢神宮を参拝した。

初日は東京駅に8時に集合し、新幹線にて名古屋へ移動。バスに乗り換えて伊勢に到着し昼食をとった。午後は豊受大御神をお祀りしている外宮へ。手水舎で身を清めて鳥居をくぐると、空気が澄んでいるように感じられ、古くからの日本の聖地であることを強く実感した。まずは正宮の御垣内の参拝。新しい木の香りを感じながら、御垣の外



でお祓いを受けて中へ入れていただき、伊藤雅由副理事長に合わせて2拝2拍手1拝で拝礼。続いて20年間の役目を終えた古殿地を参拝した。伊勢神宮では遷宮の際に、正宮の隣に同じ大きさの敷地を用意し、正宮と同じものを造るとのことで、古殿地では20年の時の流れを感じることが出来る。正宮の御垣内参拝と違い、旧正殿を間近で拝見させていただき、その大きさ、雰囲気は圧倒された。また、旧正殿の前で、案内してくださつ



た方が、遷御の儀によつてご神体が新宮に移されてから旧正宮は急に朽ち始め、逆に新宮は光り輝くよ

うになったというお話をされており、非常に感慨深いものを感じた。古殿地の参拝を終えるところにパワースポットとされ、石に手をかざすと温もりを感じるという『三つ石』でパワーをいただき、最後に遷宮の資料や正殿の一部を展示している『せんぐう館』を拝観。伊勢神宮外宮参拝は以上で終わり。

次はバスにて二見興玉神社へ移動。本来なら伊勢神宮へ参拝する前にこの二見興玉神社にて無垢塩祓いを受けるとのことだが、今回は行程の都合上、外宮参拝の後となった。夫婦岩やカエルの石像を見ながらしばらく

歩き、本殿にて無垢塩祓いを受ける。その後鳥羽シーサイドホテルへ移動し、旅の疲れを癒して初日は終了した。

2日目は天照大神をお祀りしている内宮の参拝。まず内宮前の宇治橋で記念撮影をし、踏むと金運が上昇するという3枚目の板をしつかりと踏みしめながら宇治橋を渡る。五十鈴川御手洗場で身を清め、神楽殿にて他団体と共に御神楽を奉納。複数の団体で合同のため倭舞・人長舞の他に舞樂も拝見することができた。御神樂奉納が終わると、内宮の正宮へ移動。昨日同様に御垣内参拝をさせていただいた。内宮は多くの人で混雑していたが、これでも朝の時間帯で人が少ないとのこと。最後にパワースポットの巨木に触れてパワーをいただき内宮



を後にした。

次は内宮前のおかげ横丁で解散し自由散策。おかげ横丁は江戸から明治にかけての伊勢路が再現された横丁で数多くのお店が建ち並んでいる。土曜日ということもあって縁日のような賑わいで、1日かけてゆっくりとまわってみたいと思った。あつという間に集合時間となり、昼食会場の牛鍋の名店・力也へと移動。おいしい牛鍋をいただいて帰路につく。名古屋駅までバスで向かい、新幹線に乗って東京へ到着し解散した。

(事務局・本間)



「共同募金会」

歳末助け合い募金協力

平成25年12月6日(金)、平成24年度第2回理事会、第2回評議員会の承認を得て、共同募金会への歳末助け合い募金に協力。50万円を更生保護施設清心寮に指定寄附、10万円を寄附した。

第4回狭山現地学習会

「埼玉同宗連」

10月28日(月)に狭山市の富士見集会所を会場に『第4回狭山現地学習会』を開催した。今回のテーマは事件発生から50年が経過した『狭山事件』。

講師に部落解放同盟埼玉県連合会書記長の小野寺一規氏を招き、各教宗派から約20名が参加。はじめに、備前島賢光議長が開会のあいさつをした。続いて小野寺氏より『狭山事件』についての講演。また、この日は15回目の三者協議が行われるという特別な日にもかかわらず、石川一雄さん、早智子さんご夫婦が皆様にお目にかかりたいと、多忙な予定を縫って駆けつけ、公正な裁判と事実調べを求めたいと訴えられた。

東京へ向かう二人を見送った後、実際に事件に関する現地視



察を実施。狭山市駅(旧入間川駅)から住宅街や農道を歩きながら、小野寺氏より当時の様子や様々な矛盾点などの説明を受けながら移動した。現地視察の最後は自宅跡地に設置された現場事務所を訪問。内部にはお勝手口部分が正確に復元されている。警察による2度の徹底的な捜査時に発見されなかった万年筆が、自供の後に鴨居の上からあっさり発見されたというお話や、その万年筆自体がそもそも被害者のものとは違うという



お話を聞き、事実確認が急務であると感じつつ、一日も早く石川さんの喜びの声を聞きたいと心から願った。

閉会行事では副議長の牧野大俊師より本日の総括とお礼の言葉が述べられ閉会となった。



『狭山事件市民集会』

10月31日（木）、日比谷野外

音楽堂で行われた狭山事件の再審を求める市民集会に参加した。

集会に先立って埼玉県の独自集會が行われ、備前島賢光議長らがあいさつをした。全体集會では、ミニコンサート、主催者あいさつ、各政党あいさつ、石川一雄さん・早智子さんによる



アピール、弁護団報告、基調提案、連帯アピール、市民の会アピールなど約2時間の集會行事が行われた。続いて再審を求めるデモ行進を実施。コースは日比谷公園―内幸町―数寄屋橋―東京駅八重洲口前―常盤橋公園。また、一人でも多くの人に狭山事件の真実と半世紀無実を叫び続ける石川一雄さんの姿を知ってもらおうように制作されたドキュメンタリー映画「SAYAMA」の完成上映会行われ、事務局から2名が鑑賞した。

（事務局・永堀）

『第33回部落解放 埼玉県研究集會』

11月20日（水）、久喜市総合

文化会館にて第33回部落解放埼玉県研究集會が「世界の人々と共に人権運動の輪を広げ平和と人権の21世紀を創造しよう」を集會テーマに開催された。「埼玉同宗連」からは83名（県佛から9名）が参加し、全体の参加者は1000名を越えた。基調報告では「日本における人権の現状と課題」が提起され、日本の差別の現状とその背景にある格差・貧困の問題や戸籍取得の本人通知制度・人権侵害救済法

・狭山事件再審開始といった今後の課題が説明された。続くシンポジウムは「えん罪と人権―なぜ、えん罪は起こるのか？」と題し、立石雅彦弁護士がコーディネーターをつとめ、狭山事件の石川一雄氏、布川事件の桜

井昌司氏、足利事件の菅家利和氏、山下茂弁護士の4名をパネラーとして「えん罪と人権」について語った。

午後は7つの分科会に分かれ、第5分科会の「地域・職場・教団の人権啓発活動」に参加した。「埼玉同宗連」から、天理教・埼玉教区啓発推進委員長の中村達榮氏が「天理教と同和問題」について報告を行った。

（事務局・本間）



『柴燈護摩供・火渡り修行』

埼玉県佛教青年会

埼玉県佛教青年会（三浦清志会長）は11月11日（月）、午前11時11分から朝霞市一乗院（智山）山内の菩提樹の森幼稚園園庭において柴燈護摩供・火渡り修行を厳修した。

この日は、朝から天候に恵まれ園児、保護者らが見学した。埼玉県佛教青年会の趣旨に賛同した各宗派の僧侶が出仕。遠くは、日蓮宗僧侶が岡山県から駆けつけた。

園庭に護摩木や杉枝などを積



み上げ、点火する。その火により修験者の煩惱を焼き尽くすとともに信徒の諸祈願にこたえる。護摩木は人間の煩惱を表すとされ、その護摩木を井桁に積み上げるのは、人間の罪垢が井戸のように深いからであるとの説もある。最終的には「火をもって火を制す」のように、自分が

火となり、火を支配し得る存在となつてから火渡りが行われる。最初に先達役の僧侶が火渡り修行を行い、続いて一般の見学者も火を渡りながら厄祓いや、無病息災を祈願した。

地区仏教会だより

『歳末助け合い鉢』

浦和仏教会

埼玉県佛教青年会

平成25年12月7日（土）、浦和仏教会（鎌田亮宣会長）、埼玉県佛教青年会（三浦清志会長）の共催で、歳末助け合い鉢募金が浦和駅近辺にて行われた。参加者は6名。

はじめに浦和駅東口の商店街を通り、東口駅前広場にて読経しつつ地域の福祉に役立てることを呼びかけて募金への協力を

求めた。続いて西口付近を練り歩き、途中、玉蔵院にて休憩。最後に西口駅前広場でも読経と呼びかけを行い終了。土曜日という事もあり、老若男女問わず多くの方にご協力をいただいたが、特に小さな子どもが募金箱にお金を入れる姿が印象的だった。景気がよくなりつつあるためか例年より多い87、281円が集まった。

寄せられた浄財は、両会の代表が後日埼玉新聞社を訪問し、社会福祉事業団へ全額寄託した。



謹賀新年

本年もよろしく

お願い申し上げます

合掌



(一財)埼玉県佛教会 会長
(公財)全日本仏教会 副会長
曹洞宗 能仁寺 住職
萩野 映明
〒357-0063 飯能市飯能一三二一九
電話 ○四二一九七三―四二二八
FAX ○四二一九七四―五三四六
<http://noninji.com>

『お十夜』の寺
浄土宗
勝願寺
住職 藤田得三
〒三六五―〇〇三八
鴻巣市本町八一―二三
電話 ○四八(五四)〇三三七

(一財)埼玉県佛教会 副会長
真言宗豊山派 持明院住職

木村 盛雄

〒359-0038 所沢市北秋津八五
電話 ○四二九九二―一四四六

(一財)埼玉県佛教会 副会長
真言宗智山派 三学院住職

倉持 秀裕

〒335-0001 蕨市北町3―2―14
電話 048―443―2125
FAX 048―443―2544

(一財)埼玉県佛教会 専務理事
水光山 大應寺 住職

深谷 雅良

〒354-0011 埼玉県富士見市水子一、七六五
TEL ○四九―五一一五六―一
FAX ○四九―五一一五六―〇一

(一財)埼玉県佛教会 常務理事
日蓮宗 妙福寺

住職 穂山 教雄

〒346-0115 久喜市高蒲町小林一三八九
電話 ○四八〇―八五一―四一三

(一財)埼玉県佛教会 常務理事

加藤 玄静

(城立寺住職)

(一財)埼玉県佛教会 常務理事
自坊 観音寺(真言宗豊山派)

杉村 良哉

〒340-0816 八潮市中央四―八―一〇
TEL ○四八―九九六―四四五〇
FAX ○四八―九九六―四四五〇

(一財)埼玉県佛教会 常務理事
呑龍上人奉祀
蓮馨寺 住職

糸原 恒久

〒350-0066 川越市連雀町七―一
TEL ○四九―三三二―〇〇四三
FAX ○四九―三三六―〇六七六

天台宗 東泉寺 住職
天台宗 埼玉教区議会 議長
(一財)埼玉県佛教会 理事

河野 亮玄

〒330-0044 さいたま市浦和区瀬ヶ崎二―一五―三
TEL ○四八―八八六―五一一四
FAX ○四八―八八六―四一五一
E-mail ryogenk4152@yahoo.co.jp
HP <http://www.urawa-tosenji.com/>

密蔵院

住職 山口 正純

川口市安行原二〇〇八
電話 ○四八―二九六―〇七七四

(一財)埼玉県佛教会理事
真宗大谷派了善寺

住職 嵩 海雄

〒三三〇―〇〇五二
さいたま市浦和区本太一―四二―一

天台宗 延命寺

住職 河野 亮仙

電話 ○四八 八八二―六三九〇
FAX ○四八 八八五―三六六六
<http://www.enmeiji.com>

天台宗 慈恩寺

大嶋 法道

〒339-0009 さいたま市岩槻区慈恩寺一三九
電話 ○四八(七九四)一三五四
FAX ○四八(七九四)三〇七四

最新の道路交通法 (平成25年12月1日施行)
【正しい知識で交通安全を守りましょう】



①『悪質・危険運転者への対策』

●無免許運転、無免許運転の下命・容認者および偽りその他不正の手段により免許証等の交付を受けた者に対する罰則を、改正前は「1年以下の懲役又は30万円以下の罰金」が「改正後は3年以下の懲役又は50万円以下の罰金に引上げ」

●無免許運転幫助行為に対する罰則の新設

無免許運転を行うおそれがある者に対し、自動車等を提供すると、3年以下の懲役又は50万円以下の罰金。自動車等の運転者が免許を受けていないことを知りながら、その運転者に自動車等を運転して自己を運送することを要求・依頼して同乗すると、2年以下の懲役又は30万円以下の罰金。

②『自転車の検査等に関する規定の新設』

●ブレーキのない自転車に乗ってはいけません！

警察官は、内閣府令で定める基準に適合するブレーキを備えていないため交通の危険を生じさせるおそれがあると認められる自転車が通行しているときは、停止させてブレーキを検査できるようになりました。さらに危険を防止するために必要な応急措置を命じ、応急措置では必要な整備ができない場合は、その自転車を運転しないよう命ずることができるようになりました。また、これらの命令に違反した者に対しての罰則も整備され、検査拒否等、応急措置命令等違反は、5万円以下の罰金。

③『軽車両の路側帯通行に関する規定の整備』

●自転車等の軽車両が通行できる路側帯は、道路の左側部分に設けられた路側帯に限ることとされました。路側帯の右側通行をした場合は、通行区分違反として、3ヵ月以下の懲役又は5万円以下の罰金。



※自転車が歩道を通行ができるのは、

- 1 道路標識等で指定された場合
- 2 運転者が児童及び幼児、70歳以上の高齢者、一定の障害を有する身体障害者の場合
- 3 車道又は交通の状況からみてやむを得ない場合例) 道路工事や駐車車両等のために車道の左側部分を通行することが困難な場所を通行する場合

埼玉県警察本部交通企画課 ☎048-832-0110

<p>越谷市佛教会</p> <p>会長 佐々木 純一 副会長 中里 静博 副会長 樋口 円准</p>	<p>川口佛教会</p> <p>会長 江連 俊裕 役員一同</p> <p>〒332-0012 川口市本町二丁目三十七番地 電話 〇四八-二三二-二〇四六 錫杖寺</p>	<p>真言宗豊山派</p> <p>観照院</p> <p>〒343-0851 越谷市七左町七丁目二七八番地 TEL 〇四八-九六二-五九九五 FAX 〇四八-九六二-五九九六 住職 鷺津 憲道</p>	<p>(一財)埼玉県佛教会評議員</p> <p>沼田 正順</p> <p>日蓮宗 妙昌寺 住職 川越市三光町二九 電話 〇四九-二三二-二四二四</p>
---	---	---	---

埼玉講話 第十三回

『おもてなし』

代議員 小山 典勇

(寄居・常光寺)

覚えていますか。ブエノスアイレスにおける2020年のオリンピックを日本に招致する滝川クリステルさんのプレゼンを。心の中で、おもて・な・し、と呟きながら、右手を、オ・モ・テ・ナ・シ、と一語一語区切って動かし、次に、合掌し、軽く礼をし、ほほ笑んだ姿です。オモテナシの心を合掌で表現する態度は仏教の故郷インドの礼儀です。結婚式などでは主賓の膝元に軽く手を差し伸べ、心からの敬意を表す礼法となっています。挨拶の用語はナマステ(今日は)です。南無阿弥陀仏、南無妙法蓮華経の南無(ナマ

ス)です。真言宗の小生にとって南無大師遍照金剛は、お大師さま、ご加護を宜しく願います、です。オモテナシは仏教語で言えば供養です。◎◎回忌の供養とか、お清めの席で「今日は供養だから」と言つて施主が参列者に挨拶しながらお酒や飲み物をお酌していませんか。供養について、真言宗特有の用語だと思いますが、三カの偈を紹介いたします。私自身の努力(以我功德力)、ご本尊の目に見えない支え(如来加持力)、さらに、この世のあらゆる恵み(及以法界力)を一心に集中して、常に、オ・モ・テ・ナ・シの気持ちで、日々、精進していきます(普供養而住)、と理解しています。年回忌法事やお清めで使われる「供養」も

その気持ちの表れだと思っています。自ら進んで供養すると言う趣旨を裏返すと、私という一存在は家族を始めとする周囲の人々の支え、本尊さま・ご先祖さまの霊力、天地自然の恵みと言う三の力で生かされていると理解することが出来ます。東日本大震災で学んだことの一つは、家族の絆や地域の人々のつながりが大事であり、限られた命ある人の世をお互いが和やかに生きていく自己形成力。第二に葬式無用論ではなくお葬式お墓お仏壇に象徴される祈りを表現する場の必要性。そして出会いと祈りを仏心に深め、檀信徒としてお互いに向上していく菩提寺の重要性です。政教分離・信教の自由という原則がありますから、行政や学校教育ではできない、仏教徒としての生き方を発信していく地域社会のコミュニティセンターであるように精進していこうではありませんか。

会員寺院のそれぞれの特性を生かし、また他を見習い補完しながら発信していく埼玉県佛教会を念願いたします。

※この記事は、「さいたまグラフ」平成25年11月号に掲載されました。

事件情報「さい銭ねらいにご注意ください！」

犯人はさい銭を盗むにあたり、

《さい銭箱を破壊したり、ひっくり返す》

等しますが、さい銭箱ごと持ち去るケースも見られます。

- さい銭箱を容易に動かさないよう、固定する。(ロープや錠で固定する、錠を強化する等。)
- 防犯カメラ、センサーライト、アラーム等を設置する。
- 現金はこまめに回収する。

※さい銭箱が本堂内に設置されていても、扉や錠、窓ガラスを破壊して進入されるケースもあります。こちらも十分注意をお願いします。

埼玉県警察本部生活安全企画課 ☎048-832-0110

訃報

お悔やみ申し上げます。

平成25年 9月

15日 本庄市観泉寺(豊山)

有川 泉信 師(81歳)

10月

3日 川越市薬王寺(天台)

瀧澤 亮昭 師(83歳)

18日 所沢市長源寺(曹洞)

松永 全隆 師(85歳)

22日 蕨市宝樹院(建長)

後藤 文章 師(69歳)

県佛元理事

22日 富士見市長谷寺(曹洞)

井上 義寛 師(78歳)

31日 越谷市浄捷寺(浄土)

帛溪 宗峰 師(89歳)

11月

25日 幸手市聖福寺(浄土)

今井 幹明 師(93歳)

県佛元理事

30日 宮代町真藏院(智山)

五井野 龍祥 師(75歳)

30日 ふじみ野市安楽寺(天台)

櫛笥 亮介 師(76歳)

事務局日誌

平成25年10月



31日▼「解放同盟」市民集会(日)

比谷野外音楽堂

11月

7日▼埼玉佛青「写仏」

8日▼「埼玉宗連」研修旅行(伊勢神宮／9日)

勢神宮／9日

11日▼埼玉佛青「柴燈護摩供」

13日▼執行部会(埼玉佛会館)

18日▼第35回埼玉県佛教徒大会

／第17回わかる仏教講演会

(クレアこうのす)

20日▼「解放同盟」研究集会(久喜市総合文化会館)

喜市総合文化会館

27日▼「全仏」60周年記念事業

準備委員会(金子事務局長

／明照会館)

30日▼第36回埼玉県佛教徒大会

・寄居花園川本地区仏教会

主催「第1回実行委員会」

(寄居・常光寺／金子事務局

局長、本間主事補)

12月

6日▼平成25年度第2回執行部

会(埼玉佛会館)

▼共同募金会来局

17日▼埼玉佛青「写仏」

24日▼委託業者による全館清掃

27日▼事務局仕事納め

編集後記

12月初め、沖繩県で開催された第29回N A H A マラソンに出場！人生初のフルマラソン完走に向けて練習を積み重ねました。趣味の坐禅で「調身、調息、調心」を心がけていることもあり、度々ランナーズハイの状態になり、坐禅中の感覚と似ていることに気がつき、三昧の境地を垣間見た様な気がしました。(鯉)

埼玉県佛教保育協会 第29回埼玉県佛教幼児画展

《日時》

平成26年1月25日(土)

13時～17時

1月26日(日)

10時～16時

《場所》

さいたま市文化センター

「南区根岸1の7の1」

※入場自由